

日中はまだまだ日差しがきついものの、朝晩には心地よい風がふきはじめました。  
そろそろ、秋へと向かうこれからは、アウトドアで楽しむには絶好の季節です。  
虫の声に紅葉に、秋の風に吹かれてみませんか？

## イベント案内

### 長良川カヌー&キャンプツアー

～秋のカヌーツアーは長良川を攻める！～

日 程：10月1日（金）夜～3日（日）  
目 的 地：岐阜県・長良川  
集合時刻：10月1日（金） 午後11時15分  
集合場所：JR千里丘駅 [JR京都線・大阪駅より普通で約15分]  
(改札を出て左前方の階段を下りた所。喫茶店 CITYの前。)  
参 加 費：¥15,000-  
持 ち 物：シュラフ、サンダル、着替え、防寒具、帽子、軍手、カップ、食器、米2合  
そ の 他：悪天候が予想される場合は中止いたします。

### 秋の登山

～深まる秋の北アルプス縦走！～

日 程：10月8日（金）夜～11日（月）  
目 的 地：北アルプス/燕岳～常念岳（テント泊2泊3日）経験者向き  
集合時刻：10月8日（金） 午後11時  
集合場所：JR千里丘駅 [JR京都線・大阪駅より普通で約15分]  
(改札を出て左前方の階段を下りた所。喫茶店 CITYの前。)  
装 備：登山靴（トレッキングシューズ/ハイカット）、ザック（40L以上）、長袖、長ズボン  
個人備品：シュラフ（冬用）、雨具、水筒、防寒具、着替え、帽子、ヘッドランプ（懐中電灯）、カップ、スプーン、タオル、常備薬、手袋  
\*個人備品のほかに、全体の備品（テント、燃料、食料ほか）を分散してお持ちいただきます。荷物は軽くする事を念頭に！  
速乾性、保温性のあるウェア、防水透湿性の雨具が有効です。  
朝晩の気温は0℃を下回る事、雪が降ること等も考えて、シュラフ・ウェアの防寒対策はしっかりしてください。  
参 加 費：¥25,000+保険料  
コ ー ス：中房温泉～燕岳 [2763m]（泊）～大天井岳 [2922m]～常念岳 [2857m]（泊）  
～一ノ沢

申込み：参加希望者は9月20日までにご連絡ください。  
その他：コースは予定であり、気象条件その他により変更する場合があります。テント泊を予定しておりますが、状況により山小屋を利用いたします。

秋も深まる11月は、ハイキング&温泉もしくは鍋大会でもどうでしょう？  
11月13日を予定しております。  
そして、いよいよ年に一度の飲み会イベント！忘年会！  
今年は12月18日で考えておりますが、いかがでしょうか？  
みなさまのご意見、情報をお待ちしております。

## イベント報告

(NO. 37)

### 甲斐駒ガ岳登山

長野県・南アルプス 甲斐駒ガ岳／2967m 8月6日(金)～8日(日)

23時に大阪を出発。名神・中央道を乗り継いで伊那ICより1時間。南アルプスは甲斐駒ケ岳の登山口となる北沢峠へのバス乗り場、戸台口へとついたのは4時30分。車では入れるのはここまで。5時発の臨時バスにちょうど間に合った。

運転手がガイドをしつつ、バスは右に左に揺れながら高度を上げる。中央アルプスの山並みをはるかに望み、また仙丈岳、鋸岳も山容を見せ始めるが、甲斐駒ガ岳（このあたりでは甲斐駒ガ岳を東駒ガ岳、中央アルプスの木曾駒ガ岳を西駒ガ岳と呼ぶそうである。）はガスがかかり姿を見せてくれない。

約1時間で北沢峠に到着。すでに標高2032m、さすがに涼しい！キャンプ地の北沢長衛小屋までは、ここから歩いて10分。早速、テントを張って朝食をとる。

PAOのイベントでは、もうすっかり恒例となった雨の中を7時40分出発となった。

40分ほどで仙水小屋、しばらく行くと樹林帯を抜け、ガレ場を歩く。8時50分に仙水峠に到着。とそこで、いままでかかっていたガスが強い風で一気に押し流されると、そこには息を飲むような美しい白い岩肌の甲斐駒ガ岳と摩利支天がどっかりと姿をあらわした。

仙水峠からは急登が続く。雨は止んだが、風は強い。駒津峰に到着が10時40分。しばらく歩くと、強風の中、小雨も降り出した。直登コースと迂回路の分岐点。ここは、直登コースに挑戦！！いきなりの岩登りに、下を覗けば足がすくむほどの切り立った崖である。しかし、もう戻るに戻れない所まで来てしまった。慎重に歩を進める。

厳しいコースを登り終えた末、たどり着いた甲斐駒ガ岳山頂2767m！相変わらず吹き荒れる風。しかし、ガスで展望は開けない。

ラーメンを食べ終わるころ、いよいよガスは濃く、風は強く、雨も落ちてきた。

下山路がわからないほどの濃いガスの中、下山を開始。小雨の中、迂回コースをたどる。3時半に駒津峰に到着。ここまで来たときようやく青空が広がるようになってきた。双児

山越えのコースで下山。いったん下った後の登りとなり、双児山頂上2649mには4時15分着。

「ここまで来たらあとは下りだけやし、もうちょっとやろう…」とは誰が言ったのか？

すぐに目標物が見えない樹林帯を下るようになる。「もうすぐだろう…」との思いばかりで歩きつづける。景色が変わらないのがなんともつらい。休憩を何度か挟みながら相変わらずのジグザグ道を延々と進む。駒津峰を出てもう2時間、双児山からも1時間以上経っている。地図上では駒津峰から北沢峠まで1時間40分となっているがどうなっているのだろうか？日が傾きだし、道を間違えているのだろうか？との思いで、不安になる。

と、そんな時「ああ、下に橋が見えた…！」「下に小屋の屋根が見える！」「やっと、道路が見えた…」「声が聞こえた！車の音が…」誰もが見、そして聞いたのだ…

し、しかし。橋と思ったものは、倒れた大木であり、小屋はいっこうに姿を見せない。幻覚か？幻聴なのか？ますます不安はつのも、疲れが増す。そして、いよいよランプをたよりの下山を覚悟したころ、ようやく北沢峠への看板が見えた。よかった！とりあえず、道は間違っていない。

そして、間もなく今度は本当に小屋が見え、人の声が聞こえる北沢峠へとたどり着いたのであった。6時着。駒津峰からは2時間半かかった。これが、後々語り継がれるようになった(?)「おそろべし！双児山！」である。

翌日は、なんとも悔しいほどのいい天気。帰りのバスからは、北アルプス・槍ヶ岳までが姿を見せてくれた。

温泉で疲れを癒して一路大阪へと向かった。

しかし、忘れる事ができない「おそろべし！双児山！」話題はそれでもちきりである。

【栗原隆一 記】

~~~~~

## T e n t   S i t e

《8月号で紹介できなかった、No.36 八ヶ岳登山の感想文を紹介いたします。》

[11 - 113 焼肉奉行]

登山経験皆無である私は、PAOのイベント参加第2回目で、無謀にも八ヶ岳ツアーに参加しました。

当初の不安は、登頂後、充実感と清涼感にとって替わり、踏破できたことで自分に自信を持つことができました。

楽しい結果を得ることができたのも、会長をはじめとした方々のおかげです。ありがとうございました。

一回目の『鶏冠山ハイキング』で散々にコケまくり激しい打ちみと筋肉痛に襲われた私にとって、また、山登りというものに事故とか遭難といった言葉を想像してしまう私にとって、今回の参加には、それ相応の覚悟とパワーが必要でした。参加決意後、未熟さをカバーする為に『トレッキングマニュアル』を購入し、イベントまでの2週間、仕事そっこのけで準備しました。生来、計画性というものを持たない私にとっては、それ自身、画期的なことで、自分でもビックリ。

てんやわんやの中、装備もなんとか整え、にわか知識と気合と不安を折り混ぜながら、

当日に臨みました。天気はイマイチだったけど、登山中、野生ワサビを発見したり、行き交う他の登山者との挨拶に励まされながら、なんとか行者小屋まで到達し、そこで暫しの昼食タイム。自分達で作ったラーメンと、ビールはとても美味しかった!!

食後、とうとう頂上目指しての登山がスタート。

行者小屋までの途中、森林道を抜けた幅広な道で、一瞬視野が広がり、赤岳（いや、横岳だったのかも?!）の全貌が目飛び込んできた時、（ほんまにこんなとこ登れるんやろか・・・。）と深いため息を漏らしてたけど、アルコールが開き直りを誘って、出発前には（窮鼠、猫を噛む!）とか自分でも訳わからないことを考えながら、やる気をみなぎらせていました。結果、無事に行者小屋に戻ってくることが出来、その晩は心地良く疲労した体を、石井スポーツで悩み抜いて買ったマミーに預け、グッスリ熟睡し明日に備えました。が、残念ながら降り出した雨は止むことなく、翌日はそのまま下山することとなったのですが、テントを片付けながら顔に薄ら笑みを浮かべてたのは私だけでないことを私は知っている・・・。

今振り返って一番辛かったのは、やっぱり、美濃戸口から行者小屋までの2時間です。ん？、いや、赤岳鉱泉から行者小屋までも、最後のトドメ的に辛かったかな？ アッ、でも地蔵の尾根も45度以上あると思われる傾斜とアルコールで心臓破りでしんどかったなあ・・・。

フフフ、今となってはすべて良い思い出。

楽しかったのは、やっぱり、皆との食事に、地蔵の頭から垣間見る事の出来た富士山。まさか富士山を望めるなんて思ってもみなかったのが、本当に嬉しかったし、感動でした。その雄大さに、（アッパレ、フジヤマ!!）と思わずにはいられなかった。

あと、赤岳から硫黄岳までの稜線沿いに咲いていた高山植物も美しく、本当に貴重な体験ができ、良かったです。

でも、最大の収穫はやはり全行程を無事に踏破できたことです。

残念ながら雨で二日目の登山は中止になったので、本当の意味での踏破ではないものの、体力には自信がなかった私にとっては、十分に満足できるものでした。ついて行けるかどうかが一番気がかりだったけど、しんどいながらも景色とおしゃべりを楽しむ余裕もあり、予定タイムでアップもでき、我ながら『やるやん。』と自画自賛です。

人間とは不思議なもので、登山前はついて行けたらそれで十分と考えてたのが、実際登ってみて調子が良いとなると、欲が出て、タイムなどを気にしだしたり、こけずにアップできれば、とか目標修正をあれこれ考えてしまっ、そう言った雑念の挙げ句、硫黄岳からの下りで見事にスッころんで、分不相応な欲望は飛んで消えてしまいました。

やっぱり、山のように純粋な気持ちでないとな。

これからもスケジュールが合えば、いろんなイベントに参加したいと思っています。

今後とも、楽しい企画を期待していますので、どうぞヨロシクお願いします。

~~~~~

《37 甲斐駒ヶ岳登山の感想文およびアンケートのご意見を紹介いたします。》

[11 - 094 柳原]

山にあこがれ、一緒に行ってくれる人を求めてPAOに参加させていただくようになった私ですが、今回一番痛感したのは「連れて行ってもらう側の責任」ということでした。PAOでは会長はじめ先輩男性陣がいつも参加者の状態を気遣いながら行動して下さるため、それが当然のことと甘え始めていたようです。

といっても、お荷物にはなりたくないといまでも新しい山行き予定が出る度に、その山と予定コースの難度を自分なりに調べて参加するかどうかを判断していたつもりでした。しかし初の本格的登山となった今回（事前調査では「可能」と判断した）で学んだことは、いかに自分が山に対して無知であったかということでした。

坂道をひーひー登っている間は問題なかったのですが、自分の体力と実力を考えずに「皆が行くから」「いざとなれば誰か助けてくれるだろう」と安易に最後の直登コースを選んだことは、私にとって今回の最大反省点だと思います。山という非日常の世界では考えを改める必要がありますね。

すべりやすい急峻な岩肌・崩れ落ちる砂礫・吹付ける強風の中では、何が起ころうと「自己責任」しかないのですから。私を助けるため、危険を冒してくださった矢野さんには本当に申し訳なく思っています。（保険にも入っていませんでした。）

「自分の責任を取れないような所に行くべきではない」という言葉を身をもって思い知りました。それでも山には行きたいので、今後はせいぜい精進したいと思います。これに懲りずにどうぞよろしく願いいたします。

[morigon]

前回の鶏冠山から2度目の登山でいきなり2900mとは…無謀というか、アホちゃうかと我ながら後になってやっと正気に戻った感じです。

山頂付近の瓦礫と大岩がそびえる直登コースはもう恐ろしさを乗り越え、「ウソやろ〜！」と半ば腹立ち紛れにやけくそで登ったせいか、さほど怖さも感じなかったんですが、下山の際ガスで帰り道が分からなくなった時はさすがに凍り付いてしまいました…

そして、あの恐るべし双児山…下れども下れども麓は見えず、だれもが迷宮の世界に迷い込んだかのように幻覚は見るわ、幻聴にうろたえるわで、私はもうちょっとで半狂乱になるところでした…

ともあれ、幸か不幸か？2度目の登山で早くも山の怖さを実感できてよかったです。帰り道の駒津峰や翌日のバスからの眺望もすばらしかったし。

行き帰りの運転、荷物運搬などすべておまかせできたからこそ、なんとか無事に最後まで体力が続いたのだと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

[11 - 140 タケちゃん]

（今回のイベントについて）気象条件が悪く、しかも歩行距離が長い中皆さんよく頑張ったと思います。栗原氏、谷口氏には特にお世話になりました。どうもありがとう。

（サークルの雰囲気について）ほのぼのしていてGoodだと思います。

~~~~~感想文、またアンケートにご回答いただきましたみなさま、ありがとうございました。

（NO. 38）離島ツアー

PAOのイベントとしては、久々にいい天気となった、離島・家島ツアー。姫路から風を切って疾走する渡船に乗りこみ、家島ではシーカヤックに昼食はソーメン。この時の感想文、およびアンケート回答は次号で！

## II ネパール編

### 8 ヒマラヤをあとに

ポカラでの生活はなんともゆったりと時が過ぎてゆく。

湖の周りを散歩し、チャーを飲み、店が並ぶ通りは何度も往復した。

しかし、仰ぎ見ればそこにはいつもヒマラヤがあった。

翌日、近くの山へとトレッキングに出かける。

細い道の急登を息を切らしながら、一步一步進む。驚だろうか？頭のすぐ上を大きな翼を広げた鳥が通り過ぎていった。真っ青な空はどこまでも広がっている。

2時間ほど歩いたろうか？その山の頂上へと飛び出た。

「ジャーン！！」目の前にひろがるヒマラヤ！吹きぬける風が心地いい。

白く、そして鋭い頂きが連なる。それは、明らかに今までに見た、どんな山の景色とも違っていた。

白く連なる峰が一本の帯のようにひろがり、周りの景色から浮かび上がって見える。まさに、ここは神々の住む山なのか？！

この眺めを目に焼き付けて、ヒマラヤをあとにした。

### 9 香港立ち寄り

ポカラからはいったんカトマンドゥへと戻り、いよいよ今回の旅も大詰め。ネパールから香港でのトランジットを機に、香港で2泊3日の旅の打ち上げをする。

これも、最初からの計画どおり。世俗から離れたところから、一気に人ごみの街中へと入っていく。しかし、学生の貧乏旅行には変わりなく、香港での宿は、重慶大厦（チョンキマツォン）。ビルの各階に安宿が並ぶ、どこもきれいとはいいがたいが、安さは間違いない。2段ベッドが並ぶドミトリーの部屋に決めた。

粥を食べ、ビクトリアピークからの夜景を眺め、夜の露店街を歩き、パーマをあて（？）、メガネを買って（？）香港の旅、そして今回のネパールの旅を終えることにした。

（おわり）

### PAOホームページ公開中！！

アドレスは、<http://odcpao.com>

ホームページでは、発足当初から最近のものまで写真での活動報告、またメンバー紹介等を随時更新しております。ぜひ、ご覧ください。

PAO通信・PAOの活動に関するご意見、ご希望また企画や体験談などお寄せください。お待ちしております。

アウトドアサークルPAO 栗原隆一

Eメールでも受付中！アドレスは：[info@odcpao.com](mailto:info@odcpao.com)

99.9.12